

長崎県立大学高大連携理科実験

8月23日（火）、数理探究科2年生は、長崎県立大学の看護栄養学部にて「分子レベルで考える漂白洗浄」と「遺伝子工学にふれる-DNAを切ってみよう-」、「発酵食品の醸造に関与している微生物の観察」の3班に分かれて、実験を行いました。生徒感想の一部を紹介します。「DNAを切る制限酵素にも多くの種類があり、高校より深く学ぶことができてとても面白かった。」「遺伝子工学は、生物の分野であるが化学や物理の理論を使ってあり、科学分野を幅広く勉強したいと思った。」「様々な漂白剤のラベルに書かれてある成分を比較して働きを考察するのが楽しかった。」「微生物を固定して顕微鏡観察すると種類によって大きさや形が異なっていて面白かった。」「発酵食品に関するコウジカビを顕微鏡で観察したり、自分たちで甘酒を作り飲んだのは初めてで、とても楽しく充実した実習になりました。」

このように、数理探究科では、専門機関での実験・実習を体験し、自然科学への興味関心を高め、進学や将来のビジョン（具体的な目標）に結び付く活動を実践しています。

